

[夏山'09]立山縦走・劔岳登山 報告書

法学部 3回生 川原 将司

[目的]北アルプスでバカンスをしつつ、登頂が困難な劔岳に挑む

[場所]富山県中新川郡立山町

[日時]2009年8月20日～25日 3泊5日(初日移動日・予備日[25日]含む)

[メンバー]

CL:川原将司(3回生)

食糧:溝口昇太(4回生)

記録:千葉弘貴(3回生)

装備:梅村智己(1回生)

[装備]

・団体装備

6テンフライシートグランドシートペグハンマー鍋ガス缶×3ガスヘッド×2調理セット
救急用品食料品サバイバルシート紅茶

・個人装備

メインザックサブザックザックカバーレインウェアシュラフ断熱マット箸等行動食非常食
飲料水コップヘッドランプコッププラティパス等時計地図コンパスナイフライター
呼び笛予備電池靴紐タオル着替え防寒着折り畳み傘(自由)ロールペーパー帽子手袋
新聞紙ゴミ袋洗面用具学生証保険証(コピー可)米5合青春18切符ハッピーセットSRB

[食糧計画]

| | 朝 | 昼 | 夕 |
|-----|------------|---------------|-------------------|
| 21日 | 各自で用意! | 各自弁当用意! | 焼きそば+お吸い物 |
| 22日 | 野菜炒め+スープ | 各自で用意! | 麻婆豆腐丼+キムチ+味噌汁 |
| 23日 | 炊き込みご飯+味噌汁 | たらこスパゲティ+スープ | おでん+米+味噌汁 |
| 24日 | ちらし寿司+味噌汁 | どこかで食べましょう! | 打ち上げでも構いません! |
| 予備 | | ホットケーキと蜂蜜シロップ | レトルト(各自用意)+米+お吸い物 |

※米とレトルト食品は各自で用意してください。

[行程]

・前日(20日)

-京都→富山-

22:10 全員集合。買出しなどをすませる

23:05 高速バス乗車。出発

23:30 車内にて就寝

※この時点での予報は、立山入りの21日は雨または雷、翌22日は曇りまたは雨で、23日より晴れだす模様
 劔岳行きが危ぶまれる

・1日目(21日): 天気、曇り後雨

-富山駅～移動～室堂→雷鳥沢幕営-

- 05:22 富山行き高速バス下車、富山駅着。電車→ケーブルカー→高原バス、を利用し室堂へ
7時発の高原バスに乗り込む時点ですでに霧が深く、雨が降っていた
- 07:50 室堂バスターミナル着
- 08:00 室堂停滞決定
- 09:50 雷鳥沢キャンプ場へ向け出発。雨。霧のため視界不良
- 10:25 雷鳥沢キャンプ場着
- 10:38 幕営完了、直後に雨が降り出す。テントが徐々に浸水
- 18:25 夕食(焼そば+みそ汁)
- 19:00 就寝

※剣岳登山は中止し翌日の行動は天気次第。強い雨と強風のため寝られず。テントも酷く浸水

・2日目(22日): 天気、曇り後晴れ

-立山縦走→雷鳥沢キャンプ場、サブ行動-

- 04:00 起床。晴れ。初めて立山を拝む
- 04:30 朝食(野菜炒め+コンソメスープ)
- 05:35 登山開始。剣御前小舎を経て立山三山縦走予定。
- 06:50 剣御前小屋着。剣岳を拝む。風が強い
- 07:18 別山山頂(2874m)着。晴れ。展望良し。山頂で遊ぶ
- 07:40 縦走開始。大汝山へ
- 08:58 大汝山山頂(3015m)着。槍ヶ岳・北岳が見える
- 09:20 雄山山頂(2991.6m)着。昼食を兼ねて休憩。観光客が多い
- 10:08 下山開始。真砂岳をトラバースし大砂走りを通るコースを取る
- 11:52 雷鳥沢キャンプ場着。縦走終了。食材のキムチ、ちくわが夏日に中てられていたため破棄処分
テントを移動させ、濡れていたものを全て乾かす
隣で幕営していた登山客からプチトマト、ソーセージを頂く
- 12:57 昼食(たらこパスタ+コンソメスープ)
- 13:36 ファイナルボンタン
- 17:40 夕食(おでん+ご飯+トマトとソーセージの炒めもの+みそ汁)
- 20:40 就寝。星が綺麗

※翌日は、剣岳が登頂不可になった場合に・・・と決めていた大日岳を攻めることに

・3日目(23日): 天気、晴れ時々曇り

-大日三山縦走→雷鳥沢キャンプ場(温泉にて入浴)-

- 04:00 起床
- 04:40 朝食(たけのこ・まいたけ入り炊き込みご飯+みそ汁)
- 06:00 登山開始。大日尾根を経て奥大日へ。道中、雷鳥が道の真中で鳴いていた
逃げた先、すぐ下のハイマツ帯にもう一匹と巣を発見。つがいだろうか
- 07:22 奥大日岳山頂(2611m)着。道のりが険しかった。雲行きが怪しくなってくる
- 07:45 出発。中大日岳へ。険しい道のりが続く

08:55 大日小屋到着。休憩。目指す中大日岳はルートがピークを踏まないため、見過ごしていた
09:30 大日岳山頂(2501m)着。大日岳から見る幕営地は、かなり遠くに見える
12:31 雷鳥沢キャンプ場着。入浴のためみくりが池温泉へ。急階段
16:00 雷鳥沢キャンプ場着。夕食準備
17:00 夕食(マーボーナス+ご飯+みそ汁)。ガス缶残りわずか。食後、立山山荘まで行き星を眺める
20:00 就寝。目覚ましセットせず

・4日目(24日): 天気、晴れ時々曇り

-下山→帰宅-

05:00 起床
05:30 朝食(ちらし寿司+みそ汁)。ガス缶は何とかもった
07:00 下山開始
07:38 室堂バスターミナル着。下山終了。来た道を、高原バス→ケーブルカー→電車、と乗り継いでいく
10:00 富山駅着。鱒寿司を皆で買い、帰りの電車内で、分けあった鱒寿司の「違い」を吟味する
18:00 京都着。解散

【費用】

・交通費

高速バス、3880円(片道、学割料金)

電鉄富山～室堂バスターミナル間、往復 6530円

・内訳

電鉄富山～立山駅間、往復 2340円

立山駅～室堂バスターミナル間、往復 4190円

富山駅～京都駅間、青春18切符一回分(2300円)

・食費 1000円程度

・幕営費 1000円程度

合計 15000円程度、富山でお土産を言うと言った方は多めに(?)用意すると吉

【緊急連絡先】

企画、CL 川原将司

在京連絡人 杉山智也

探検部顧問 横山茂樹

京都産業大学学生生活課(昼間)

京都産業大学守衛所(夜間)

富山県警上市警察署室堂警備派出所(山岳警備隊)

感想

○梅村智己：装備担当

今回の立山バカンスは、バカンスと言う意味では素晴らしい物に成ったと考えます。しかし、残念なことは劔岳に登頂出来なかった事です。

次は、劔岳にリベンジしてみたいと考えます。

後、正直大日岳は、奥大日だけで十分と思いました。

総合的には素晴らしい合宿になって良かったと思いました。

○千葉弘貴：記録担当

今回の夏合宿だが、正直な所、登れるかどうか不安だった。

しかし、実際にはサブザックだったこともあり、前回の比良山登山よりも全然楽で、立山の雄大な景色も楽しみながら楽に登る事ができた。劔岳には残念ながら登る事はできなかったが 3000m の地を踏めたので個人的には満足である。

反省点としては、劔岳には行けなくもなかったが、ついつい甘えてしまい、大日岳登山にしてしまったことである。

次回、もし立山登山が行われるのならば、必ず劔岳に挑もうと思う。

○溝口昇太：食糧担当

今回の立山は個人的には三回目ということもあり、コースはほぼ完璧に把握し、多くの知識を増やすことができた。今回行動中は晴れが続き、行動に支障が出ることはなかったものの、風が強く、皮膚の乾きへの対策不足が正直残念であった。このように山では想像しないことが起こりうるということが再確認されただけでも十分得るものは大きかったといえる。また、就寝中の雨や風への対策をメンバー内にもっと周知しておくことが必要だったのではないかと反省している。ただ、今回の風雨は十分に余裕があったので結果オーライだったといえるかもしれない。

大日連山縦走は今回が初めてで、どのような山かは知らなかったものの、地図等で事前に勉強していたためそれなりに想像することができていたのだが、道中はそれ以上につらかった。ただ、その分ペースの配分やキレットのような道をいかに進み、岩肌をどう超えるかの判断など学ぶことは多かった。また、一般の登山客とのかかわり方も一考すべきだと感じた。

最大の目的である劔岳登頂は雨のために頓挫したものの立山縦走、大日連山制覇など充実した山行を楽しむことができた。前回は別山尾根から富士山が見えたため、今回も期待していたのだが、残念ながらそれは叶わなかった。ただし、初日の雨を除けば連日晴れの天気で劔岳、薬師岳、槍ヶ岳、穂高連峰、といった名だたる山々を遠くに見ることができ、その雄大さに非常に感激し、また山に行きたいと思った。

なお、今回のもともとの計画に大日連山の縦走は入っておらず、天候不順などを加味して CL の判断があったのだが、天候など不測の事態に対する柔軟性は探検部には絶対に必要となる。判断を誤った場合には残念なことになる場合が多いため、柔軟な思考を始め、他人からのアドバイス、事前の知識などを総合し、判断できるようにこれからも努力していきたいと思う。

○川原将司：企画、CL 担当

昨年に続いて今年も挑戦することになった劔岳登山及び立山縦走であるが、週間天気を見ると、当日はどうにも動きやすいと言える天気ではないようだった。私と溝口さんは前回、劔岳・立山登山の経験があるが、他二名

は室堂入りが今回初めてとなるため、前々から期待していた劔岳登山が困難となったことに、非常に残念そうにしていた。私としても、合宿前に雨または雷の予報を知って、劔岳登山を断念せざるを得ない状況が濃厚となった時、非常に残念に思った。20日昼12時の天気図では、ちょうど日本海上に低気圧があつて、寒冷前線が合宿中に富山(中部地方)を通過する見込みだったが、実際には劔岳登山の予定日には晴れだったため、強行して劔沢まで降りられれば登山自体は可能だったことも、残念さに拍車をかけた。

しかし、劔岳登山の一般ルート上の鎖場を一度経験した身から、「天候の悪化した状況であの場を通過するのは危険」と判断したことに、間違いはなかったと思う。もしもの事態と言うのは、極力避けたい。また、強行して劔沢まで降りることについて、雨に濡れながら視界不良の登山をしなければならないことをメンバーに告げると、さすがに難色を示していた。確かに、私自身も、濡れたままの行動は不快だし、何よりそれでは楽しくない。予備日を使うことも考えたが、夏季休暇の有意義なスケジュールをおしてまで停滞するのも頂けず、更に、雷鳥沢からであれば、元々の登山計画を大日三山縦走に楽にシフトできることもあつて、「敢えて」予備日を使うことにせず済ませた。

室堂までの移動は難なくこなせた。しかし、室堂に着いた時にはもう霧が深く、外での目視可能な距離は10mあたりが限界だった。室堂バスターミナルは広いので、暇つぶしも、未経験だった二人にはちょうど良かったように思う。雷鳥沢で停滞したのは過去にもあったが、初日は1日中の雨で本当に長い間テントに籠った。景色をろくに見ることもできず、時間が経つのを寝て待つことしかできなかった。

2日目の立山は相変わらず綺麗で、晴れて良い登山日和になった。登る前に稜線を一望し、恒例の「あそこが今日行くところ」等と旅行の計画を立てる時のようにはしゃいだ。山頂付近の縦走路は景色を楽しみながら歩くことができた。サブザック行動だったので「ちょっとお散歩」気分だった。縦走を無事に終えた時には真昼で、射すような日光が厚く、肌を焼いた。高所で気温が低いとはいえ、その分日射量が多いため顔がかなり焼けてしまった。

3日目は、私も初めて登る大日三山縦走だった。雷鳥沢から見て予想する、大日岳までの稜線からの景色は、すごく良いはずだと踏んでいた。予想通りだった。雷鳥も出迎えてくれた。途中の、崖が崩れたような危険なルートは、時間をかけて通った。天気が良いから通ることができたように思う。ただ、帰りはピストンで同じく長い道を通ったのだが、いかんせん体力を消耗したせいで、帰りの危険度が増していたような気がした。

登山行程を全て終え、温泉でしっかり入浴してバスや電車も逃さずに下山・帰宅できて良かった。前日まで天気に悩まされたが、山にさえ入ってしまえばどうと言う事はなかった。

反省と言う反省があつたとすれば、やはり食糧計画に問題があつたのではと思う。途中放棄した、キムチやちくわがあつたからだ。量的には、キムチは一品物で出すつもりだったし、ちくわはおでんに足す位のものだったので、そう多くはなかつたものの、他でのこの失態は致命的なものになっていたのではないだろうかと思う。

帰りがけには皆で鱒寿司を買って、分けて食べた。1年越しの鱒寿司だったが、味を思い出しながら食べる事ができた。鱒寿司は、奈良で食べた「柿の葉寿司」とはまた違う味・食感で、こちらの方が魚の切り身が肉厚で、飯に酢が効いているような気がした。柿の葉寿司は、酢飯に鯖や鮭等を合わせ、柿の葉で包んで押したもの。一口サイズで販売されていることが多く、魚の切り身の種類も豊富。一方、富山県の郷土料理である「鱒寿司」は、木製で直径20cm程の円形の曲物に鱒の切り身と酢飯が笹に包まれた状態で詰められたもの。二段重ねでも販売されている。今回買った鱒寿司は、昨年と同じく一段のもの。鱒寿司に用いられる魚の切り身は、文字通り鱒だけを用いる。が、いかに同じ鱒寿司とは言え、作り手如何で味や食感が変わってくる。私の買った鱒寿司は、正直うす味で、もう少し味にアクセントがあつても良いだろうとは思いますが、一人で一段の鱒寿司を食べるとなると、これ位がしつこくなく、さらに二段三段と食べられるような仕上がりになっていた。一方、梅村の買った鱒寿司は、私のものよりも遥かに味付けが濃く、飯にも、これでもかと言わんばかりにたっぷりと酢が効いていた。まるで刺身を食べているような感覚に陥った。他方、千葉、溝口さんの鱒寿司は、はっきりとした違いはなかつたように思われるが、若干、千葉が買った鱒寿司の方が食べやすく、皆それぞれ違う店の鱒寿司を買

って食べあったのだが、全員一致で千葉が買った鱒寿司が美味しいとの結論に至った。鱒寿司を頬張りながら、こう言った楽しみもまた、登山の醍醐味の一つだと思った。

今回の合宿は、初めての2人も満足してくれたようなので、良かったと思う。劔岳の方はまた次に来ることにして、これからも楽しい山行ができれば、と思う。